

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 12 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102694		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい矢野		
所在地	広島県広島市安芸区矢野東4丁目24-14 (電話) 082-889-5551		
自己評価作成日	平成26年12月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470102694-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年12月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所では、「グループ理念」の「生活づくり10ヶ条」に基づき、入居者様の自立支援に対し、スタッフ全体で取り組むと共に、具体的な環境整備を行い、成果へと繋げている。また、個別性を大切にし、「その人らしさ」を理解、援助することで、ご利用者が楽しみ、喜んでいただけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、平成14年4月開設のグループホームである。住宅地の中にあり、地域に溶け込むような形で運営することを心がけている。法人の理念「生活づくり10か条」に基づき、利用者の自立支援を意識した介護のため、個別ケアの実践や職員の研修に力を入れ、「その人らしさ」を理解、援助すること実践している事業所である。特に排泄の支援に素晴らしい成果を上げており、布パンツの使用や夜間のみポータブルトイレを設置する等の取り組みにより、定員27名の利用者のうち約半数が布パンツを使用しており、施設内にも特有の臭いがなく気持ちの良い共有空間となっている。

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を基に、管理者、リーダーが中心となり、他職員に助言・指導を行っている。又、月に一回ミーティングを開き、理念、目標を振り返り、ケアを行っていく上での方向性、想いを再確認している。	法人の理念「生活づくり10か条」に基づき、「サービスの質を向上させる」「個々に合ったサービスメニューの提供」「組織の強化」を事業所の重点目標として、地域の中に溶け込んだ、利用者本位の運営ができるよう、職員個人別のチャレンジシートをもとに、各自振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域での行事や町内会の総会等に可能な限り参加させて頂く事で、地域の方々と交流を図り、より信頼関係が深まるよう努めている。	地域に対しては日頃からの挨拶を行っているほか、地域行事、清掃活動、地域の祭りなどに参加し、民生委員児童委員協議会などの地域団体を通じて地域との信頼関係が築けるよう努力がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、情報交換を行う場を設けている。また、その中で勉強会を実施、認知症の人の理解や支援の方法について、地域の方々に理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、地域包括・町内会長・民生委員・各ユニット家族代表等の出席があり、事業所の取組み、状況等の報告を行なっていると共に、改善策や課題が話し合われている。また、年に1回消防署職員を交えて防災訓練を行い、防災に対する意識も高めている。	2ヶ月に一度、日時を決めて定期的に運営推進会議を開催し、事業所の取組みが詳細に報告されている。参加者から地域の防災ハザードマップなどの情報提供や防災についての提案を受けている。家族からの意見や問い合わせに答えることで施設運営に対する理解を深めてもらう良い機会になっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者と連絡を取り合い、些細なことから日頃の取組み、サービスの実績を積極的に伝えている為、協力関係を築くことが出来ている。	市の担当者とは事故報告や苦情報告、要介護認定の申請手続きなどで日頃から交流を持ち、運営に対するアドバイスを受けている。事業所の様子を積極的に伝えることで、協力関係を築くことができている。	

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に行われる研修にて、身体拘束についての知識、理解を深め、職員全体で情報共有を行い、日々のケアの見直しを行っている。エレベーターホールや玄関に鍵はせず、自由に出入りできる環境である。</p>	<p>日頃から介助や声かけ方法を工夫し、身体拘束にならないような予防的な利用者とのかわり方について、定期的に職員研修や事業所内のミーティングを行い、個別の介助方法について研鑽を深めている。現在も拘束は行われておらず、昼間の施錠もなく、自由に出入りできる環境になっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内部研修、外部研修への参加を促し、知識や理解を深めると共に、ミーティングや回覧などで全職員に伝え、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用している方が数名いらっしゃる、職員の制度への理解を深めると共に、日々の情報提供を通じて、成年後見人との関係性を強固なものにしていけるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>前もって十分な説明をする機会を設け、納得を得ている。また、ご家族が来所された際や、電話対応等で、家族の要望や疑問等を聞くようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会や行事で来られた際に得られた意見、要望等を職員同士で共有し、運営に取り入れている。また、日常生活の中で、職員が気付いたこと等もご家族へ連絡し、意見を聞いている。合わせて、家族会を年2回開催し、その場で意見、要望を聞き、運営に反映させられるよう努めている。</p>	<p>家族会を年2回開催し、運営に対する意見を聞くほか、利用者一人ひとりに担当をつけ、家族からの相談の窓口や、日常生活の中で気付いたことを連絡するようになっている。また、面会時に家族からの意見を聞くなど、利用者、家族からの意向を反映できる取り組みがなされている。</p>	

Ａユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な職員面談を実施し、管理者と職員が意見交換をできる場を設けている。また、その中で得られた情報や要望の中から改善点等があれば、解決策を検討、実施するよう取り組んでいる。	管理者と職員との間に「リーダー」職を設けることで、日常的な相談をリーダーが受け、必要に応じ管理者が解決策を検討、実施している。その結果、設備の修繕や必要物品の購入、職員が休憩しやすい場所の確保、花壇や畑の工夫など、職員主導の改善提案がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年度初めにチャレンジシート（目標設定）を各自が作成し、その内容を基に管理者より、個々が目標達成をできるための助言等を行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内のステップアップ研修、外部研修の案内が随時回ってきており、積極的に参加するよう努めている。また、月に2回程度、事業所内で実際に課題となっている問題について、法人内の介護アドバイザーから助言、指導を受け、介護の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループ内の研修だけでなく、外部研修にも積極的に参加するよう呼びかけ、研修案内を提示している。また、法人内の介護アドバイザーより助言、指導を受けると共に、他事業所との情報交換を行ないやすい環境を築いている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用相談を受けた際に、当施設を見学して頂く場合は、ご本人に対して、丁寧に説明をさせて頂いている。また、入所して頂いた際には不安や要望など無いか、職員より積極的に話しかけることで、早い段階での信頼関係が築けるよう努めている。		

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の要望や思いをしっかり傾聴し、可能な限りそれに応えるべく取り組みを行うとともに、細やかな連絡等により情報共有を図り、良好な関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプラン作成の際、ご家族との相談、検討により、現在必要としている支援を見極め、内容について納得して頂いた上で、プラン作成に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の生活習慣、生活歴などの情報収集に努め、日常生活で何がしかせるのか支援、助言等を行なっている。また、ご本人主体のケアが行えるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来て頂ける様、近況報告や行事案内等の連絡をさせて頂いている。面会に来られた際は、一緒に過ごして頂けるように配慮し、絆を大切にしている。毎月末には生活状況や写真などを送付させて頂き、ご家族の想いも可能な限りケアプランに反映し、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の生活史を知ることで、馴染みの場所等を把握し、その場所へ出向くことをきっかけに、生活空間の拡大や、生きがいを感じて頂けるよう努めている。	入居時に「その人を知る」シートを作成し、利用者のことを深く理解しようと努めている。その結果、利用者が入居前に利用していた公民館で習い事に引き続き通ってもらったり、墓参りや近隣のスーパーに外出したり、地域との関係性を保てるような取り組みがなされている。	

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日レクリエーション等を行い、その中でご利用者同士の関係性を見出し、良好な関係性の構築に努めている。また、家事等をご利用者同士で行ってもらい、時折職員が間に入る事で更なる関係性の向上を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も何かあればいつでも相談していただけるような声かけを行っている。いつでも支援できる体制づくりに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「その人らしい生活」を支える事を大切にし、日々の関わりの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に力を入れ、尊重するように努めている。困難な場合は日々、ご本人の様子を見て利用者本位に支援できるよう検討している。	言葉で伝えることが難しい利用者に対しては、表情などで意向をくみ取ったり、家族から本人の生活状況や生活史を聞き取る等して、「その人らしい生活」ができるような支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族からの聞き取りやサマリーを見て情報を把握している。生活歴に関しては、入居後もケアプランや日々の生活に反映させるため、継続して情報をご家族等から収集している。そして、その情報を職員間で共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックを行い、体調管理に努めている。また、体調に関することや精神的なこと等、細かく記録に残し、職員間で共有している。		

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランを作成する際は、ご本人、ご家族に意向を確認し反映している。また、月1回程度フロアミーティングを開催し、職員間で意見交換をしている。加えて、ケアプラン作成時には、ご家族に対して栄養面での意向を確認し、それを栄養士に伝え、栄養ケア計画書を作成している。</p>	<p>利用者本人や家族の意向を取り入れた介護計画を、チームで決めている。また、月1回のフロアミーティングを開催し、職員間で意見交換をすることで、適宜見直しを行っているほか、必要に応じて栄養面でのケア計画など、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活の中では細かなことも個人記録に記入し、職員間の情報の共有、ケアの実践に活かしている。ケアプランを実践した際にはモニタリングとして個人記録に記入し情報共有、次回プラン作成に活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>1ヶ月に1回、ご家族宛に文章にて日頃の様子を報告すると共に、面会時や電話にて近況を随時報告している。また、ご本人、ご家族のニーズに応じて、職員間で情報の共有や相談を行い、多彩なサービス、必要なサービスが提供できるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議を通し、地域の方と交流を行い、地域の行事に参加し親交を深めている。また、買い物や散歩などご本人が持っている力を役立てることができるように、地域の方々にご理解とご協力をお願いしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご本人、及びご家族の希望を大切にし、今まで利用していた病院の受診希望があればできる限り対応している。</p>	<p>入居時に利用者や家族の意思確認を行い、それまで利用してきた医療機関を受診希望される場合は家族対応にて受診できるように支援している。提携医からの定期的な往診があるほか、近隣の総合病院に協力医になってもらい、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>定期的に訪問看護師が来所し、利用者様の状況を確認している。介護職員も日々の気づき、様子を随時報告し、相談、指示を受け対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は細目に面会に行き情報収集を行っている。また、ご家族にも状況など連絡していただけるように話をしている。医療関係機関には日頃より、グループホームのパンフレット持参、空室状況のお知らせ等を通じて、関係性づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時にご家族に対し説明を行っている。入居後は、ご利用者の状態に合わせて随時話し合いを行っており、ご家族の希望があればターミナルケアを実施している。その際は、定期的なミーティングを行い、最期まで可能な限りの「その人らしい生活」ができるよう支援している。</p>	<p>入居時に医療体制について説明を行うとともに、重度化した場合の対応について説明を一通り行うようにしている。実際に終末期にさしかかった場合、再度説明を行い、看取りを希望される場合は事業所にて対応し、これまでの看取りの事例を活かし、週1回のカンファレンスを重ね、チームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時のマニュアルがあり、随時研修を行っている。定期的に救命講習も受けており、実践力を身につけることができるよう取り組んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的（年2回以上）に避難訓練を行っている。年一度、運営推進会議の際に避難訓練を行い、地域の方に見ていただくことで災害時に協力していただけるように話をしている。</p>	<p>年2回、昼間想定と夜間想定で避難訓練を行い、消防署からも初期消火の指導や避難誘導時のポイントについてアドバイスを受けている。運営推進会議を利用して災害訓練を行うことで、地域の方々の協力を得られるような工夫がなされている。</p>	

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃からご利用者の意思の尊重、言葉遣いには配慮して対応するよう指導している。また、書面の扱いには十分注意しており、個人情報の取り扱いに留意している。	利用者への排泄介助時など、人目に触れないように配慮したり、職員間での伝達、利用者ファイルについても他人の目に触れたり知られたりしないよう工夫がなされている。また、日頃から利用者と思慮疎通を行い、利用者一人ひとりの人格を尊重したケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で自分の思いや、意思決定を自由にできる環境づくりをしている。また、ご本人に合わせたケアができるよう心掛けており、可能な限りの選択肢があるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先の動きではなく、利用者優先の動きを取るよう意識を高く持ち支援している。また、利用者の思いや希望に沿って支援出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理美容の来所があったり、希望によっては美容院等にも出かけている。随時、身だしなみに注意し整容を心掛けている。ご本人の希望に応じた髪型、服装選び等の支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の買出しや調理、配膳、片付け等できるだけ一緒に行えるよう取り組んでいる。また、メニュー作りにはできるだけ旬のものを取り入れるように工夫している。	朝食と夕食は事業所において調理している。献立についても、利用者から好みを聞き取り、家事に慣れた職員の意見を取り入れ、管理栄養士が栄養バランスを反映した献立を考えている。また、調理も可能な限り利用者を手伝ってもらうことで、食事を楽しむことができるよう支援している。	

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	日々の利用者の食事、水分摂取量は把握出来ており、個々の状況に合わせて支援している。管理栄養士と連携を取り、その方に合った一日の最低摂取量を算出してもらい、それを目標に声かけや介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアに取り組んでおり、誤嚥予防に努めている。また、協力歯科医院があり、必要な方に関しては随時の往診対応をしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを掴めるよう、一覧表を作り把握に努めている。個々の排泄のリズムを掴み、時間帯を見極め誘導する事で、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。オムツ→リハビリパンツ→布パンツを目標にし、日々取り組みを行っている。	排泄パターンを含めた健康状態を把握したシートを活用し、水分量の調整をはかるなどして排泄の自立支援に取り組んでいる。その結果、利用者の約半数は布パンツを使用し夜間のみリハビリパンツを使用するなど、排泄の自立支援に向け、日々取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等に，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘になる事で現れる症状をスタッフ全員が理解し、食事には食物繊維の多い根菜類などを使用し、水分も1500cc以上飲用出来るよう声かけ、介助をしている。また、下剤に頼るのではなく、適度な運動（レクリエーション）を取り入れたり、ホットパックやマッサージをする事で自然排便が促せるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の入りたいという希望に出来るだけ添えるよう支援している。個々のご利用者に対して曜日は決めておらず、毎日入浴可能。スタッフの都合にて夜間浴までは行っていない。	個々の利用者に対し入浴する曜日は決めず、要望に応じて毎日でも入浴ができるほか、入浴日を記録し、入浴ができていない利用者に対しては適切に入浴を促している。また、脱衣場と浴室では一人の利用者のみ使用するようにし、プライバシーにも配慮し入浴を安心して楽しんでもらえるような配慮がなされている。	

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人に合った生活リズムを考慮している。一人部屋があり、安心して休みたい時に休めるよう支援している。また、リビングの畳の間で休まれている方もいるが、カーテンで仕切り、周りから見えないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更があった場合、服薬後の様子を主治医に報告する為、状態の観察をしっかり行い、変化があれば記録に残し、往診時に報告するようにしている。また、一人一人の服薬リストを作成し、スタッフがきちんと把握できるよう回覧し、薬に対する理解、関心を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	買い物や台所仕事、洗濯等、得意な事を行ってもらうことで、役割を持って頂けるよう支援している。そのために、利用者一人一人に対し、まずその人に合った役割や楽しみを見つけることから支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外気浴へできる限り参加して頂いている。ドライブも各ユニットで協力し合い支援している。また、普段は行けないような場所でも、ご家族に等にもご協力を仰ぎ、外出できるよう支援している。	散歩に出かけたり、回転寿司や墓参りなどに出かけるほか、利用者が「出たい」と言われる場合には職員と一緒に付き添って出かけたりしている。また、個別介護計画で観光地や劇場に出かけ、利用者の意欲向上をはかるなど、日常的な外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本、グループホームでは個人の金銭をお預かりしていない。ご本人が望む購入物があれば、ご家族に相談した上で、立替購入として対応している。		

Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人宛にかかってきた電話に対しては、可能な方はお話頂いている。また、「電話をかけたい」、「手紙をかきたい」というご要望があった際は、必要に応じてご家族等に確認して、ご希望に添えるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間において、食事準備の際に調理している匂いがすること、ご利用者に食事に対する意識を働かしてもらったり、季節感を取り入れた花を飾る等により、心地よく過ごせるよう工夫している。また、不快や混乱のないよう、テレビ等の音量にも配慮している。</p>	<p>共有空間には利用者の作品を展示したり、日常生活の風景を写真にとって掲示したりするなど、利用者が居心地良く過ごせるような配慮がなされているほか、施設内の空気にも配慮がなされ、施設特有の臭いがない。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングテーブルには一人ひとりの定位置があり、思い思いに過ごされている。また、共用のソファ等のご利用者同士の語らいの場となっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時にご家族と相談の上、自宅で使い慣れたタンス、日用品、写真等、なじみの物を持ち込んでもらうようにし、少しでも安心して生活できるよう配慮している。</p>	<p>居室内に持ち込む物品に制限はなく、使い慣れたタンスや日用品、写真等、馴染みの物を持ち込むことができ、利用者に安心して生活してもらえるような配慮がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室やトイレの分からない方にはドアに貼紙を貼り、一人で行えるようにしている。また、食事の際、良い姿勢をとれるように、その方に合った椅子やテーブルの高さに調整している。こうした環境面をやさしくして差し上げる取り組みを重点的に実施している。</p>		

Bユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を基に、管理者、リーダーが中心となり、他職員に助言・指導を行っている。又、月に一回ミーティングを開き、理念、目標を振り返り、ケアを行っていく上での方向性、想いを再確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域での行事や町内会の総会等に可能な限り参加させて頂く事で、地域の方々と交流を図り、より信頼関係が深まるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、情報交換を行う場を設けている。また、その中で勉強会を実施、認知症の人の理解や支援の方法について、地域の方々に理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、地域包括・町内会長・民生委員・各ユニット家族代表等の出席があり、事業所の取組み、状況等の報告を行なっていると共に、改善策や課題が話し合われている。また、年に1回消防署職員を交えて防災訓練を行い、防災に対する意識も高めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者との連絡を取り合い、些細なことから日頃の取組み、サービスの実績を積極的に伝えている為、協力関係を築くことが出来ている。		

Ｂユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に行われる研修にて、身体拘束についての知識、理解を深め、職員全体で情報共有を行い、日々のケアの見直しを行っている。エレベーターホールや玄関に鍵はせず、自由に出入りできる環境である。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内部研修、外部研修への参加を促し、知識や理解を深めると共に、ミーティングや回覧などで全職員に伝え、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用している方が数名いらっしゃる、職員の制度への理解を深めると共に、日々の情報提供を通じて、成年後見人との関係性を強固なものにしていけるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>前もって十分な説明をする機会を設け、納得を得ている。また、ご家族が来所された際や、電話応対等で、家族の要望や疑問等を聞くようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会や行事で来られた際に得られた意見、要望等を職員同士で共有し、運営に取り入れている。また、日常生活の中で、職員が気付いたこと等もご家族へ連絡し、意見を聞いている。合わせて、家族会を年2回開催し、その場で意見、要望を聞き、運営に反映させられるよう努めている。</p>		

Bユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な職員面談を実施し、管理者と職員が意見交換をできる場を設けている。また、その中で得られた情報や要望の中から改善点等があれば、解決策を検討、実施するよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年度初めにチャレンジシート（目標設定）を各自が作成し、その内容を基に管理者より、個々が目標達成をできるための助言等を行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内のステップアップ研修、外部研修の案内が随時回ってきており、積極的に参加するよう努めている。また、月に2回程度、事業所内で実際に課題となっている問題について、法人内の介護アドバイザーから助言、指導を受け、介護の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループ内の研修だけでなく、外部研修にも積極的に参加するよう呼びかけ、研修案内を提示している。また、法人内の介護アドバイザーより助言、指導を受けると共に、他事業所との情報交換を行ないやすい環境を築いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用相談を受けた際に、当施設を見学して頂く場合は、ご本人に対して、丁寧に説明をさせて頂いている。また、入所して頂いた際には不安や要望など無いか、職員より積極的に話しかけることで、早い段階での信頼関係が築けるよう努めている。		

Bユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族の要望や思いをしっかりと傾聴し、可能な限りそれに応えるべく取り組みを行うとともに、細やかな連絡等により情報共有を図り、良好な関係が築けるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ケアプラン作成の際、ご家族との相談、検討により、現在必要としている支援を見極め、内容について納得して頂いた上で、プラン作成に取り組んでいる。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人の生活習慣、生活歴などの情報収集に努め、日常生活で何がしかせるのか支援、助言等を行なっている。また、ご本人主体のケアが行えるよう取り組んでいる。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会に来て頂ける様、近況報告や行事案内等の連絡をさせて頂いている。面会に来られた際は、一緒に過ごして頂けるように配慮し、絆を大切にしている。毎月末には生活状況や写真などを送付させて頂き、ご家族の想いも可能な限りケアプランに反映し、共に支えていく関係作りに努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>個々の生活史を知ること、馴染みの場所等を把握し、その場所へ出向くことをきっかけに、生活空間の拡大や、生きがいを感じて頂けるよう努めている。</p>		

Ｂユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日レクリエーション等を行い、その中でご利用者同士の関係性を見出し、良好な関係性の構築に努めている。また、家事等をご利用者同士で行ってもらい、時折職員が間に入る事で更なる関係性の向上を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も何かあればいつでも相談していただけるような声かけを行っている。いつでも支援できる体制作りにも努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「その人らしい生活」を支える事を大切にし、日々の関わりの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に力を入れ、尊重するように努めている。困難な場合は日々、ご本人の様子を見て利用者本位に支援できるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族からの聞き取りやサマリーを見て情報を把握している。生活歴に関しては、入居後もケアプランや日々の生活に反映させるため、継続して情報をご家族等から収集している。そして、その情報を職員間で共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックを行い、体調管理に努めている。また、体調に関することや精神的なこと等、細かく記録に残し、職員間で共有している。		

Bユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランを作成する際は、ご本人、ご家族に意向を確認し反映している。また、月1回程度のフロアミーティングを開催し、職員間で意見交換をしている。加えて、ケアプラン作成時には、ご家族に対して栄養面での意向を確認し、それを栄養士に伝え、栄養ケア計画書を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活の中では細かなことも個人記録に記入し、職員間の情報の共有、ケアの実践に活かしている。ケアプランを実践した際にはモニタリングとして個人記録に記入し情報共有、次回プラン作成に活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>1ヶ月に1回、ご家族宛に文章にて日頃の様子を報告すると共に、面会時や電話にて近況を随時報告している。また、ご本人、ご家族のニーズに応じて、職員間で情報の共有や相談を行い、多彩なサービス、必要なサービスが提供できるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議を通し、地域の方と交流を行い、地域の行事に参加し親交を深めている。また、買い物や散歩などご本人が持っている力を役立てることができるよう、地域の方々にご理解とご協力をお願いしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご本人、及びご家族の希望を大切にし、今まで利用していた病院の受診希望があればできる限り対応している。</p>		

Bユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>定期的に訪問看護師が来所し、利用者様の状況を確認している。介護職員も日々の気づき、様子を随時報告し、相談、指示を受け対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は細目に面会に行き情報収集を行っている。また、ご家族にも状況など連絡していただけるように話をしている。医療関係機関には日頃より、グループホームのパンフレット持参、空室状況のお知らせ等を通じて、関係性づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時にご家族に対し説明を行っている。入居後は、ご利用者の状態に合わせ随時話し合いを行っており、ご家族の希望があればターミナルケアを実施している。その際は、定期的なミーティングを行い、最期まで可能な限りの「その人らしい生活」ができるよう支援している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。</p>	<p>緊急時のマニュアルがあり、随時研修を行っている。定期的に救命講習も受けており、実践力を身につけることができるよう取り組んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的（年2回以上）に避難訓練を行っている。年一度、運営推進会議の際に避難訓練を行い、地域の方に見ていただくことで災害時に協力していただけるように話をしている。</p>		

Bユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃からご利用者の意思の尊重、言葉遣いには配慮して対応するよう指導している。また、書面の扱いには十分注意しており、個人情報の取り扱いに留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で自分の思いや、意思決定を自由にできる環境づくりをしている。また、ご本人に合わせたケアができるよう心掛けており、可能な限りの選択肢があるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先の動きではなく、利用者優先の動きを取るよう意識を高く持ち支援している。また、利用者の思いや希望に沿って支援出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理美容の来所があつたり、希望によっては美容院等にも出かけている。随時、身だしなみに注意し整容を心掛けている。ご本人の希望に応じた髪型、服装選び等の支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の買出しや調理、配膳、片付け等できるだけ一緒に行えるよう取り組んでいる。また、メニュー作りにはできるだけ旬のものを取り入れるように工夫している。		

Bユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	日々の利用者の食事、水分摂取量は把握出来ており、個々の状況に合わせて支援している。管理栄養士と連携を取り、その方に合った一日の最低摂取量を算出してもらい、それを目標に声かけや介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアに取り組んでおり、誤嚥予防に努めている。また、協力歯科医院があり、必要な方に関しては随時の往診対応をしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを掴めるよう、一覧表を作り把握に努めている。個々の排泄のリズムを掴み、時間帯を見極め誘導する事で、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。オムツ→リハビリパンツ→布パンツを目標にし、日々取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘になる事で現れる症状をスタッフ全員が理解し、食事には食物繊維の多い根菜類などを使用し、水分も1500cc以上飲用出来るよう声かけ、介助をしている。また、下剤に頼るのではなく、適度な運動（レクリエーション）を取り入れたり、ホットパックやマッサージをする事で自然排便が促せるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の入りたいという希望に出来るだけ添えるよう支援している。個々のご利用者に対して曜日は決めておらず、毎日入浴可能。スタッフの都合にて夜間浴までは行っていない。		

Bユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人一人に合った生活リズムを考慮している。一人部屋があり、安心して休みたい時に休めるよう支援している。また、リビングの畳の間で休まれている方もいるが、カーテンで仕切り、周りから見えないよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の変更があった場合、服薬後の様子を主治医に報告する為、状態の観察をしっかり行い、変化があれば記録に残し、往診時に報告するようにしている。また、一人一人の服薬リストを作成し、スタッフがきちんと把握できるよう回覧し、薬に対する理解、関心を深めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>買い物や台所仕事、洗濯等、得意な事を行ってもらうことで、役割を持って頂けるよう支援している。そのために、利用者一人一人に対し、まずその人に合った役割や楽しみを見つけることから支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩や外気浴へできる限り参加して頂いている。ドライブも各ユニットで協力し合い支援している。また、普段は行けないような場所でも、ご家族に等にもご協力を仰ぎ、外出できるよう支援している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>基本、グループホームでは個人の金銭をお預かりしていない。ご本人が望む購入物があれば、ご家族に相談した上で、立替購入として対応している。</p>		

Bユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人宛にかかってきた電話に対しては、可能な方はお話ししている。また、「電話をかけたい」、「手紙をかきたい」というご要望があった際は、必要に応じてご家族等に確認して、ご希望に添えるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間において、食事準備の際に調理している匂いがあることで、ご利用者に食事に対する意識を働かしてもらったり、季節感を取り入れた花を飾る等により、心地よく過ごせるよう工夫している。また、不快や混乱のないよう、テレビ等の音量にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングテーブルには一人一人の定位置があり、思い思いに過ごされている。また、共用のソファ等のご利用者同士の話合いの場となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族と相談の上、自宅で使い慣れたタンス、日用品、写真等、なじみの物を持ち込んでもらうようにし、少しでも安心して生活できるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレの分からない方にはドアに貼紙を貼り、一人で行えるようにしている。また、食事の際、良い姿勢をとれるように、その方に合った椅子やテーブルの高さに調整している。こうした環境面をやさしくして差し上げる取り組みを重点的に実施している。		

Ｃユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を基に、管理者、リーダーが中心となり、他職員に助言・指導を行っている。又、月に一回ミーティングを開き、理念、目標を振り返り、ケアを行っていく上での方向性、想いを再確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域での行事や町内会の総会等に可能な限り参加させて頂く事で、地域の方々と交流を図り、より信頼関係が深まるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、情報交換を行う場を設けている。また、その中で勉強会を実施、認知症の人の理解や支援の方法について、地域の方々に理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、地域包括・町内会長・民生委員・各ユニット家族代表等の出席があり、事業所の取組み、状況等の報告を行なっていると共に、改善策や課題が話し合われている。また、年に1回消防署職員を交えて防災訓練を行い、防災に対する意識も高めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	担当者と連絡を取り合い、些細なことから日頃の取組み、サービスの実績を積極的に伝えている為、協力関係を築くことが出来ている。		

Ｃユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に行われる研修にて、身体拘束についての知識、理解を深め、職員全体で情報共有を行い、日々のケアの見直しを行っている。エレベーターホールや玄関に鍵はせず、自由に出入りできる環境である。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内部研修、外部研修への参加を促し、知識や理解を深めると共に、ミーティングや回覧などで全職員に伝え、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用している方が数名いらっしゃり、職員の制度への理解を深めると共に、日々の情報提供を通じて、成年後見人との関係性を強固なものにしていけるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>前もって十分な説明をする機会を設け、納得を得ている。また、ご家族が来所された際や、電話対応等で、家族の要望や疑問等を聞くようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会や行事で来られた際に得られた意見、要望等を職員同士で共有し、運営に取り入れている。また、日常生活の中で、職員が気付いたこと等もご家族へ連絡し、意見を聞いている。合わせて、家族会を年2回開催し、その場で意見、要望を聞き、運営に反映させられるよう努めている。</p>		

ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的に職員面談を実施し、管理者と職員が意見交換をできる場を設けている。また、その中で得られた情報や要望の中から改善点等があれば、解決策を検討、実施するよう取り組んでいる。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年度初めにチャレンジシート（目標設定）を各自が作成し、その内容を基に管理者より、個々が目標達成をできるための助言等を行なっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内のステップアップ研修、外部研修の案内が随時回ってきており、積極的に参加するよう努めている。また、月に2回程度、事業所内で実際に課題となっている問題について、法人内の介護アドバイザーから助言、指導を受け、介護の質の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>グループ内の研修だけでなく、外部研修にも積極的に参加するよう呼びかけ、研修案内を提示している。また、法人内の介護アドバイザーより助言、指導を受けると共に、他事業所との情報交換を行ないやすい環境を築いている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用相談を受けた際に、当施設を見学して頂く場合は、ご本人に対して、丁寧に説明をさせて頂いている。また、入所して頂いた際には不安や要望など無いか、職員より積極的に話しかけることで、早い段階での信頼関係が築けるよう努めている。</p>		

Ｃユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の要望や思いをしっかりと傾聴し、可能な限りそれに応えるべく取り組みを行うとともに、細やかな連絡等により情報共有を図り、良好な関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプラン作成の際、ご家族との相談、検討により、現在必要としている支援を見極め、内容について納得して頂いた上で、プラン作成に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の生活習慣、生活歴などの情報収集に努め、日常生活で何が生かせるのか支援、助言等を行なっている。また、ご本人主体のケアが行えるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来て頂ける様、近況報告や行事案内等の連絡をさせて頂いている。面会に来られた際は、一緒に過ごして頂けるように配慮し、絆を大切にしている。毎月末には生活状況や写真などを送付させて頂き、ご家族の想いも可能な限りケアプランに反映し、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の生活史を知ることで、馴染みの場所等を把握し、その場所へ出向くことをきっかけに、生活空間の拡大や、生きがいを感じて頂けるよう努めている。		

ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日レクリエーション等を行い、その中でご利用者同士の関係性を見出し、良好な関係性の構築に努めている。また、家事等をご利用者同士で行ってもらい、時折職員が間に入る事で更なる関係性の向上を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も何かあればいつでも相談していただけるような声かけを行っている。いつでも支援できる体制作りを努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「その人らしい生活」を支える事を大切に、日々の関わりの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に力を入れ、尊重するように努めている。困難な場合は日々、ご本人の様子を見て利用者本位に支援できるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族からの聞き取りやサマリーを見て情報を把握している。生活歴に関しては、入居後もケアプランや日々の生活に反映させるため、継続して情報をご家族等から収集している。そして、その情報を職員間で共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックを行い、体調管理に努めている。また、体調に関することや精神的なこと等、細かく記録に残し、職員間で共有している。		

Ｃユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランを作成する際は、ご本人、ご家族に意向を確認し反映している。また、月1回程度のフロアミーティングを開催し、職員間で意見交換をしている。加えて、ケアプラン作成時には、ご家族に対して栄養面での意向を確認し、それを栄養士に伝え、栄養ケア計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の中では細かなことも個人記録に記入し、職員間の情報の共有、ケアの実践に活かしている。ケアプランを実践した際にはモニタリングとして個人記録に記入し情報共有、次回プラン作成に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	1ヶ月に1回、ご家族宛に文章にて日頃の様子を報告すると共に、面会時や電話にて近況を随時報告している。また、ご本人、ご家族のニーズに応じて、職員間で情報の共有や相談を行い、多彩なサービス、必要なサービスが提供できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議を通し、地域の方と交流を行い、地域の行事に参加し親交を深めている。また、買い物や散歩などご本人が持っている力を役立てることができるよう、地域の方々にご理解とご協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、及びご家族の希望を大切に、今まで利用していた病院の受診希望があればできる限り対応している。		

ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>定期的に訪問看護師が来所し、利用者様の状況を確認している。介護職員も日々の気づき、様子を随時報告し、相談、指示を受け対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は細目に面会に行き情報収集を行っている。また、ご家族にも状況など連絡していただけるように話をしている。医療関係機関には日頃より、グループホームのパンフレット持参、空室状況のお知らせ等を通じて、関係性づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時にご家族に対し説明を行っている。入居後は、ご利用者の状態に合わせ随時話し合いを行っており、ご家族の希望があればターミナルケアを実施している。その際は、定期的なミーティングを行い、最期まで可能な限りの「その人らしい生活」ができるよう支援している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時のマニュアルがあり、随時研修を行っている。定期的に救命講習も受けており、実践力を身につけることができるよう取り組んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的（年2回以上）に避難訓練を行っている。年一度、運営推進会議の際に避難訓練を行い、地域の方に見ていただくことで災害時に協力していただけるように話をしている。</p>		

Cユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃からご利用者の意思の尊重、言葉遣いには配慮して対応するよう指導している。また、書面の扱いには十分注意しており、個人情報の取り扱いに留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で自分の思いや、意思決定を自由にできる環境づくりをしている。また、ご本人に合わせたケアができるよう心掛けており、可能な限りの選択肢があるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先の動きではなく、利用者優先の動きを取るよう意識を高く持ち支援している。また、利用者の思いや希望に沿って支援出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理美容の来所があったり、希望によっては美容院等にも出かけている。随時、身だしなみに注意し整容を心掛けている。ご本人の希望に応じた髪型、服装選び等の支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の買出しや調理、配膳、片付け等できるだけ一緒に行えるよう取り組んでいる。また、メニュー作りにできるだけ旬のものを取り入れるように工夫している。		

Cユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	日々の利用者の食事、水分摂取量は把握出来ており、個々の状況に合わせて支援している。管理栄養士と連携を取り、その方に合った一日の最低摂取量を算出してもらい、それを目標に声かけや介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアに取り組んでおり、誤嚥予防に努めている。また、協力歯科医院があり、必要な方に関しては随時の往診対応をしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを掴めるよう、一覧表を作り把握に努めている。個々の排泄のリズムを掴み、時間帯を見極め誘導する事で、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。オムツ→リハビリパンツ→布パンツを目標にし、日々取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘になる事で現れる症状をスタッフ全員が理解し、食事には食物繊維の多い根菜類などを使用し、水分も1500cc以上飲用出来るよう声かけ、介助をしている。また、下剤に頼るのではなく、適度な運動（レクリエーション）を取り入れたり、ホットパックやマッサージをする事で自然排便が促せるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の手助けで曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の入りたいという希望に出来るだけ添えるよう支援している。個々のご利用者に対して曜日は決めておらず、毎日入浴可能。スタッフの都合にて夜間浴までは行っていない。		

ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人に合った生活リズムを考慮している。一人部屋があり、安心して休みたい時に休めるよう支援している。また、リビングの畳の間で休まれている方もいるが、カーテンで仕切り、周りから見えないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更があった場合、服薬後の様子を主治医に報告する為、状態の観察をしっかり行い、変化があれば記録に残し、往診時に報告するようにしている。また、一人一人の服薬リストを作成し、スタッフがきちんと把握できるよう回覧し、薬に対する理解、関心を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	買い物や台所仕事、洗濯等、得意な事を行ってもらうことで、役割を持って頂けるよう支援している。そのために、利用者一人一人に対し、まずその人に合った役割や楽しみを見つけることから支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外気浴へできる限り参加して頂いている。ドライブも各ユニットで協力し合い支援している。また、普段は行けないような場所でも、ご家族に等にもご協力を仰ぎ、外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本、グループホームでは個人の金銭をお預かりしていない。ご本人が望む購入物があれば、ご家族に相談した上で、立替購入として対応している。		

ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人宛にかかってきた電話に対しては、可能な方はお話ししている。また、「電話をかけたい」、「手紙をかきたい」というご要望があった際は、必要に応じてご家族等に確認して、ご希望に添えるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間において、食事準備の際に調理している匂いがすることで、ご利用者に食事に対しての意識を働かしてもらったり、季節感を取り入れた花を飾る等により、心地よく過ごせるよう工夫している。また、不快や混乱のないよう、テレビ等の音量にも配慮している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングテーブルには一人一人の定位置があり、思い思いに過ごされている。また、共用のソファ等のご利用者同士の話の場となっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時にご家族と相談の上、自宅で使い慣れたタンス、日用品、写真等、なじみの物を持ち込んでもらうようにし、少しでも安心して生活できるよう配慮している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室やトイレの分からない方にはドアに貼紙を貼り、一人で行えるようにしている。また、食事の際、良い姿勢をとれるように、その方に合った椅子やテーブルの高さに調整している。こうした環境面をやさしくして差し上げる取り組みを重点的に実施している。</p>		

Aユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

Aユニット

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

Bユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

Bユニット

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

Cユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

Cユニット

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい矢野

作成日 平成27年1月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策として、食糧等の備蓄はなされているが、物品（防寒用品等）にまだ不足がある。	災害時の避難場所としての機能を確保する	防災グッズの整備、調達（関係者への周知を含む）	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。